

令和7年度自己評価書・学校関係評価書

令和8年3月4日
真庭市立米来こども園
園長 二宗 くり子

1. 米来こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

「心豊かに いきいきと活動する子どもを育てる」

- ・明るく元気な子ども
- ・友だちと仲よく遊ぶ子ども
- ・遊びを工夫し最後までやりとげる子ども
- ・思いやりのあるやさしい子ども

2. 本年度の指導の重点

本年度の研究テーマ

「子ども一人一人がいきいきと活動するための援助と環境構成を探る」

～心が動く遊びを通して～

○明るく元気な子ども

・体と心が動く活動を通して、心地よさやおもしろさを感じ、自分の中の様々な感情と向き合うことができるような子どもを育てる。

⇒「自分と向き合う力」により、自制心、忍耐力、自己肯定感、調整力、不安を抑える力、レジリエンス（回復力）が育つ。

○遊びを工夫し最後までやりとげる子ども

・遊びを通して、試したり工夫したりする中で、自らの世界やイメージを広げたり、それらを表現し、活動がより充実したものとなるように子どもとともに計画・実践する。

⇒「自分を高める力」により、好奇心、遊び心、探求心、創造力、グリッド（やり抜く力）、意欲、向上心、集中力、チャレンジ力、工夫等が育つ。

○友達と仲よく遊ぶ子ども

思いやりのあるやさしい子ども

・友達と活動する中で、思いや考えを共有したり、時には違う考えを知ったり、それらの経験から心を通わせることの大切さに気づき、友達を思いやることのできる子どもを育てる。

⇒「他者とつながる力」により、共感力、思いやり、協調、社交性、コミュニケーション力、対話力等が育つ。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	保育目標・指導の重点のもと、園全体の計画、月案・週案に基づいて、子どもの心が動く遊びや活動を計画・実施してきた。確実な振り返りから次の活動に繋げていきたい。	4	4
行事	行事の内容や開催方法、時期の検討を行い、予定通り開催、実施することができた。今後も一つ一つの行事を大切に捉え、子どもたちが楽しめる活動としていきたい。	4	4
組織・運営	風通しのよい職場環境の中、協同して保育を行うことができた。少人数体制のため、打合せに十分な時間が取りにくい現状はあるが、役割や分担を明確にし、丁寧な保育を実践していきたい。	4	4
学級経営	発達段階を捉え、一人一人を受け止め丁寧に関わったことで育ちに繋がったと考える。個々の特性を理解した上で、「やってみよう！」気持ちを大切にされた保育が実施できた。今後も個々に応じた手立てや配慮をしていきたい。	4	4
特別支援教育	保護者や関係機関と連携を取り、互いに情報交換しながら、より良い支援に向けた協議を重ねてきた。信頼関係をもとに、切れ目のない支援を継続していきたい。	4	4
安全管理・保健指導	定期的な安全点検・避難訓練を実施し、子ども自らが危険を理解し、身を守れるような意識づけを心がけて行った。今後も訓練を重ねながら、地域・学校を含めた BCP 計画を確実にしていきたい。	3	3
研修（資質向上）	市や県の研修会に参加し、情報収集や知識を深めた。久世地区研修では昨年度から継続した研修を行い、子どもの育ちや援助の仕方を探り、資質向上に努めた。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	コドモン・各種便り・ホワイトボード等により園の様子を保護者に伝えることができた。地域交流では花植えやお飾り作り、毎来寺見学等、地域文化や伝統行事に触れることができ地域の温かさを感じる経験ができた。	4	4
小学校との接続・連携	1・5年生との交流を行った。合同運動会を通して、小学生への憧れの気持ちが芽生える機会		

	があった。年長児が不安なく入学できるよう、今後もなめらかな接続を目指していきたい。また、交流の在り方やねらい、内容等を検討し実施していけたらと思う。隣接しているのでより良い関わりが持てるようにしていきたい。	3	3
子育て支援	保護者との日々の関わりを大切にし、園が子育て支援の場となるよう努めてきた。個人懇談を設け、家庭での様子や子育ての相談、就学に向けての思い等を共有・課題に向けての方向性を話し合うことができた。また、保護者会が中心となって活動・行事を計画、実施することができた。今後も安心して子育てできる環境を整えていきたい。	4	4
食育の推進（給食）	学校・共同調理場、栄養士等と連携を取りながら安心安全な給食を提供することができた。学校共同調理場の栄養士や担当職員ともきめ細かい連絡を取り合い信頼関係が構築できている。また、毎日の給食の写真を保護者に掲示してきた。給食参観では、栄養士からの食育指導も行い、食に対する意識が高まったように感じている。	4	4

学校評議員・園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

<ul style="list-style-type: none"> ・保育目標、研究テーマをもとに、全員体制で保育に取り組んできた。季節に即した「森遊び体験」や「主体的に遊びを構成する力」を目指した遊びの展開と発展、「地域との交流」による温かい関わりや保育への繋がり、「職員と保護者の信頼関係」を基盤とする保護者会主催の活動の実施等、新たな試みも含め実践してきた。子どもたちの「やってみよう」を保育に生かした活動が園の活性化に繋がったように思う。 ・毎月の「おひさまだより」の発行、毎日のコドモンでの保護者への発信、ホームページ更新等、地域や保護者への情報発信を行った。 ・避難訓練・交通安全教室等、職員で共通理解しながら行った。地域・学校を含めたBCP計画を確実にし、今後も職員の危機管理を高めていきたい。 ・個人懇談を設け、家庭での様子や子育ての相談、就学に向けての課題に向けた話等伺うことができた。今後も園の様子を丁寧に伝えていきたい。 ・小学校とは隣接している強みを生かし、職員同士の交流（公開保育、公開授業への参加等）さらに円滑な接続ができるよう取り組んでいきたい。
--

〈学校評議員関係者評価総合所見〉

- ・保育目標のもと、年齢に応じた計画を立て、保育活動に取り組んだことで、年長児が中心となって計画した遊びが園全体に広がっている。「お祭りごっこ」を代表する様々な活動は、昨年には見られなかったものであり遊びがステップアップした様子が感じられた。
- ・今年度になり、「森遊び体験」をはじめとする様々な取組みから、興味・関心が深まる活動に繋がっている。様子を見守りながら、今何が必要かということを考えてしながら今後も保育して行ってほしい。
- ・市内外の研修に関しては、復命を通して資質向上に繋がっているので継続してほしい。
- ・地域との温かい交流が感じられる。1月に行われた「七輪とお正月遊びを楽しもう」では、普段行かない小学校の運動場で親子でしっかり遊んだり、保護者同士が親しくなったり良い機会となっている。
- ・小学校とは隣接しており、こういう環境はなかなかないのでしっかり関わってほしい。
- ・職員同士連携を取りながら丁寧に保育をされている。園児も喜んで楽しく園に通えている。
- ・基本的な生活習慣は、家庭とも連携しながら今後も続けてほしい。
- ・保護者会での計画・共有した「親子遠足や参観日の取組み（お祭りごっこ参観・給食参観・子育て講演会）」に参加したが、子どもたちが遊びを盛り上げ活動している様子がわかった。
- ・保護者や地域にも園の様子がよく伝わっている。

5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・保護者や地域の方々の温かい見守りの姿勢を感じている。子どもたちの生活や経験の充実に向け、地域の伝統や繋がりを大事にしながら、季節に合った遊びや活動を計画・実施していきたい。
- ・地域の方への回覧を通して、評議員の方にも毎月「おひさまだより」を配布させていただいた。来年度はよりこども園のことを知っていただきたく、年3回園公開日をお知らせしたい。
- ・今後も心が動く遊びや活動が実施できるように、職員でアイデアを出し合い、保育に取り組んでいきたい。